

産業振興委員会 活動報告書

令和元(2019)年10月24日

宇都宮商工会議所
会頭 増淵 正二 様

産業振興委員会
委員長 増山 郁夫

当委員会は、平成28(2016)年度から委員会が所管する重要事項の調査・研究を進めてまいりました。

このほど、次に掲げる事項についての調査・研究が終了しましたので、その活動経過と結果についてご報告いたします。

産業振興委員会 委員名

委員長	増山郁夫	ランスタッド(株)	専務執行役員
副委員長	辻博明	(株)浄邦堂	代表取締役
委員	青木勲	北関東総合警備保障(株)	代表取締役会長
〃	笠原正人	アサヒタクシー(株)	代表取締役
〃	加治康正	加治金属工業(株)	
〃	角一幸	(株)TKC	代表取締役社長
〃	戸塚正一郎 (前任 永野 尚)	(株)SUBARU宇都宮製作所	常務執行役員航空宇宙カンパニープレジデント宇都宮製作所長
〃	田野邊大介	東一宇都宮青果(株)	代表取締役社長
〃	鈴木直人	(株)スズテック	代表取締役
〃	中島理	ミュキ建設(株)	代表取締役
〃	吉村憲光	(株)三洋製作所	取締役社長
〃	中泉照明 (前任 柿沼 健) (前々任 井上 邦彦)	日本郵便(株)宇都宮中央郵便局	局長
〃	安在裕志 (前任 高橋 純夫)	村田発條(株)	代表取締役社長
〃	横松宏明	(株)横松建築設計事務所	代表取締役
〃	飯村悟	(株)飯村石材工業	代表取締役社長
〃	谷田部幸男 (前任 福村 宏之)	(株)関電工 北関東・北信越営業本部	栃木支店長
〃	佐藤忠雄	興新特殊鋼(株)	取締役会長
〃	平典子	(株)たいらや	代表取締役社長
〃	佐畑浩司	東都工業(株)	代表取締役社長
〃	石川秋十	報徳流通システム(株)	代表取締役社長
〃	小川恒夫	(株)ユーユーワールド	代表取締役
〃	岩村隆之	岩村建設(株)	取締役会長
〃	坂本英典	(株)さかもと	代表取締役
〃	齋藤健吾	(株)齋藤鑑識証明研究所	代表取締役

目 次

- 1 委員会の活動経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1～2

- 2 調査研究事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3～12
 - (1) 「宇都宮市 第6次総合計画」について

 - (2) 「うつのみや産業振興ビジョン（改定）」について

 - (3) 大谷地区現場視察（地域活性化委員会との合同委員会）について

- 3 委員意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13～18
 - (1) 各委員会における委員意見

 - (2) 委員からの、産業振興におけるキーワード

- 4 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P19

1 委員会の活動経過

(1) 第1回委員会（平成29(2017)年3月3日）

ア 内容

(ア) 委員会の調査・研究事項について

(イ) 委員会の進め方（年間スケジュール）について

⇒ 調査・研究事項について意見交換を行った結果、「海外進出（国際化）」や「アウトバウンド」、「LRTの整備による産業振興」などが挙げられたが、当面は行政関係者を招聘し、産業振興に係るプランや施策等の説明を聞くこととした。

イ 出席者 8名

(2) 第2回委員会（平成29(2017)年7月6日）

ア 内容

(ア) 説明

a テーマ 「宇都宮市 第6次総合計画について」

b 説明者 宇都宮市 総合政策部政策審議室

〃 経済部産業政策課

(イ) 委員会の調査・研究事項について

(ウ) 平成29年度活動計画（案）について

(エ) 意見交換

⇒ 宇都宮市からの説明を受け、当委員会の調査・研究事項について議論が交わされ、「企業誘致」や「地域内ブランドの発展」、「新産業の開発及び情報共有」、「既存企業の事業推進や発展」などが挙げられたが、本委員会名称である「産業振興」の幅が大きいいため、引き続き産業振興に関する有識者を招聘し説明を聞き、調査・研究事項を絞り込むこととした。

イ 出席者 11名

(3) 第3回委員会（平成30(2018)年6月25日）

ア 内容

(ア) 当委員会の調査・研究事項について

(イ) 平成29(2017)年度 活動報告について

(ウ) 説明

a テーマ うつのみや産業振興ビジョン（改定）について

b 説明者 宇都宮市 経済部産業政策課

(エ) 平成30(2018)年度 活動計画(案)について

(オ) 意見交換

⇒ 宇都宮市からの説明を受け、当委員会の調査・研究事項として「大谷地区や大谷石」や「農業振興」、「LRTによる産業の発展」、「労働力の確保」などが挙げられ、当委員会では「観光とは異なる視点での大谷地区、大谷石による産業の振興に関すること」を調査・研究事項とした。

イ 出席者 8名

(4) 第4回委員会(平成30(2018)年11月27日)

ア 内容

(ア) 大谷地区現場視察(地域活性化委員会との合同委員会、宇都宮市職員による同行及び説明)

視察地

- a 大谷石採取場跡地観測所(城山地区市民センター隣接)
- b 大谷石採掘場(有)北戸室石下石材店様 敷地内)
- c 大谷夏いちご栽培圃場(株)ロック・ベリー・ファーム様)
- d 保冷倉庫実証実験場(株)屏風岩様 敷地内)
- e 大谷公園・市営大谷駐車場

(イ) 懇親会

⇒ 前回の委員会結果を受け、「産業」の切り口で大谷地区の活性化の可能性等について調査・研究するため、大谷地区の現場視察を実施した。

イ 出席者 20名(うち当委員会7名)

同行説明者 宇都宮市 経済部都市魅力創造課大谷振興室

(5) 第5回委員会(令和元(2019)年10月1日)

ア 内容

(ア) 当委員会活動報告書(案)について

⇒ 活動報告書(案)の内容について協議が行われ、異議なく承認された。

(イ) 意見交換

⇒ 産業振興にかかる大谷地区の活性化や外国人観光客の受け入れ促進策等について意見交換が行われた。

イ 出席者 8名

2 調査研究事項

(1) 「宇都宮市 第6次総合計画」について

(平成29(2017)年7月6日 宇都宮市総合政策部政策審議室、経済部産業政策課)

ア 総合計画について

(ア) 意義と役割

宇都宮市の将来を長期的に見通し、地域社会共通のまちづくりの目標を定め、実現するために必要な施策の方向を明らかにしたもので、まちづくりを総合的、計画的に進めるための基本となるもの。

(イ) 総合計画の変遷

	都市像
第1次総合計画（昭和46年度策定）	住みよい、豊かなら活力ある都市
第2次総合計画（昭和51年度策定）	心のかよい合う 人間性豊かなまち宇都宮
第3次総合計画（昭和61年度策定）	恵まれた四季を愛し、新しさを生み、やさしさを育て、楽しさを広げるまち宇都宮
第4次総合計画（平成9年度策定）	ひとに活力 まちに魅力 未来へ羽ばたく つどいの都うつのみや
第5次総合計画（平成19年度策定）	くらしいきいき まちキラキラ つながる人・夢のみや うつのみや

イ 宇都宮市の現状

(ア) 人口の状況

本市の人口 518,594人（平成27(2015)年10月1日現在）
全国1,719の市町村うち26位

(イ) 人口の見通し

平成29(2017)年にピークを迎え、人口減少に転じる見込み

a 2035年 498,323人（50万人を下回る）

b 2050年 449,595人（45万人を下回る）

(ウ) 産業の現状

中核市（※）の中でトップクラスの産業規模

※中核市とは、人口20万人以上で身近なところで行政を行うことができるようにした都市

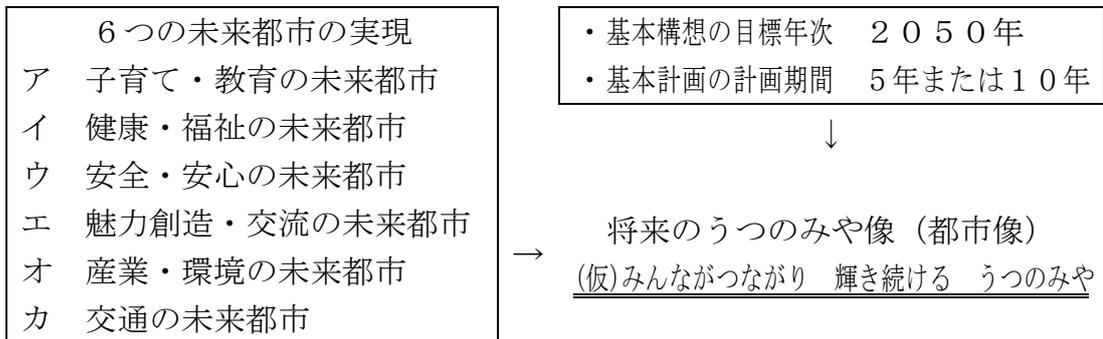
		本市	中核市平均
農業	農業産出額	197億円	128億円
商業	年間商品販売額	2兆8359億円	1兆3586億円
工業	製造品出荷額	1兆8068億円	1兆360億円

ウ 第6次総合計画について

(ア) まちづくりの重点課題

- a 課題1 次代を築く人づくり
- b 課題2 健康づくりと福祉の充実
- c 課題3 安全・安心な地域づくり
- d 課題4 都市の個性づくりのさらなる強化と魅力の発信
- e 課題5 地域を支える産業の活性化と環境調和型社会の構築
- f 課題6 骨格の強い都市の形成

(イ) まちづくりの目標



(ウ) (イ)の「未来都市」の取り組み例（抜粋）

- a 魅力創造・交流の未来都市
 - (a) 大谷地域をはじめとした観光資源を一層活用する
 - (b) 外国人観光客の受入を促進する
 - (c) 東京圏からの移住・定住者を増加させる
 - (d) プロスポーツチームによる地域の活性化を図るなど
- b 産業・環境の未来都市
 - (a) 消費者が望む新鮮で高品質な農産物が安定的に供給される
 - (b) 宇都宮の特性・強みを生かした企業集積・立地を促進する
 - (c) 働きやすい労働環境を実現させる
 - (d) 省エネの促進や効率的なエネルギー利用など地球温暖化対策を推進する
 - (e) 身近な商店街や街なかの店舗・商業施設などの魅力を高める
 - (f) 地域の企業やスポーツチーム、各種イベントなどを盛り上げるなど

- (エ) (イ)の「未来都市」の実現に向けた取り組み事例（抜粋）
- a 「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向けて
→大谷地域の振興

④魅力創造・交流の未来都市の実現に向けて

➤大谷地域の振興

・観光・産業・歴史文化など地域の持つ豊富な資源を最大限に活用し、観光拠点としてさらに魅力を高める。

大谷 エリア将来イメージマップ

- b 「産業・環境の未来都市」の実現に向けて

5 地域の確固たる経済力の維持・発展と環境に優しい都市の実現が両立する
「産業・環境の未来都市」

こんなことに取り組みます

- ▶ 地域経済をけん引する産業の創出・育成と企業誘致・集積の推進
- ▶ 女性の市内企業への就職の促進など女性が働きやすい環境づくりの推進
- ▶ 中小企業のICT(情報通信技術)利活用の促進、会社経営の円滑な引き継ぎの推進
- ▶ 農業を支える担い手の確保・育成、農産物のブランド化の促進
- ▶ LRTのトランジットセンターへの省エネ・再エネ設備の導入など、LRT沿線の低炭素化の促進

など

- c 「交通の未来都市」の実現に向けて
→2050年ごろのイメージ



(2) 「うつのみや産業振興ビジョン（改定）」について
(平成30(2018)年6月25日 宇都宮市経済部産業政策課)

ア うつのみや産業振興ビジョン（改定）について

- (ア) ビジョンの位置づけ
「第6次宇都宮市総合計画」の経済・産業分野に掲げる政策の実現に向け、今後10年間の産業振興を図るための指針
- (イ) 計画期間
平成30(2018)年～令和9(2027)年までの10年

イ 本市の産業を取り巻く環境の変化と本市の現状

- (ア) 現状
- a ネットワーク型コンパクトシティの形成に向け、8つの産業拠点（主に工業団地）に高度な産業、研究開発、流通業務機能などの集積を促進中
 - b 20代は東京圏への転出超過傾向で、特に女性が顕著
 - c 市内工業団地はほぼ分譲完了
 - d 観光の入込客数は増加傾向であり、特に外国人宿泊客数は大幅に増加傾向
- (イ) 本市の強み
- a 高齢化率は全国の中核市で3番目に低く、若年層の労働力が比較的豊富
 - b 首都圏と隣接し、交通アクセスに優れている
 - c 次世代モビリティ関連産業の「製造業」「情報通信業」が強い集積
 - d 大谷地域や餃子、プロスポーツなどの多様な特色のある資源・コンテンツが存在

ウ 本市産業の振興上の課題

- (ア) 新技術・新製品開発・新事業の創出への対応
- (イ) 企業の立地・定着への対応
- (ウ) 中小企業・小規模事業者、農業者の経営基盤強化への対応
- (エ) 地域資源の有効活用への対応
- (オ) 多様な人材の確保と育成への対応

エ 本市が目指す産業発展の姿

「創造力」「耐久力」「循環力」「稼ぐ力」を高めた「経済・産業未来都市」

オ 施策展開と重点取組

	施策	主な重点取組
新事業、成長産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ関連産業が「第4次産業革命」「水素社会」などの進展や本市へのLRT導入などを契機とし、更なる飛躍を促進 本市の企業が、新技術・新製品の開発や新分野への進出などにより、ニッチトップ企業へ成長するとともに、技術力や経営資源を活用して社会や地域の課題解決への貢献・協力を促進 	<ul style="list-style-type: none"> LRT関連産業を次世代モビリティ関連産業に加え、交通産業の集積を促進 電気自動車の開発・普及や水素・燃料電池の利活用などによる低炭素化の促進
産業集積を高める企業の立地・定着の促進	<ul style="list-style-type: none"> 8つの産業拠点（工業団地など）とその周辺を中心に、高い生産性や付加価値、競争力などを生み出すことが可能な高度な産業の集積を図り、更なる拠点化を促進 東京圏への転出超過が続く「若年女性」や担い手不足の「農業」などの受け皿となる企業の立地を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな産業用地の開発推進 東京圏等からの本社機能の移転促進とオフィス系企業の立地促進
地域資源を最大限に活かす産業の総合力の向上	<p>地域資源を最大限に活かし、製品やサービスに高い付加価値を創出し、市場規模を拡大するとともに、企業間、産学官金間、農商工観光業の連携を促進し、本市産業の「総合力」の向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いちご」や「大谷石」などの地場製品のブランド力向上の促進 農業6次化の促進 大谷地域の地域資源を活用した観光・鉱工業・農業・商業の更なる振興と新産業の創出 経済波及効果の高い新たなツーリズムの創出促進 プロスポーツと連携した商業・工業・観光の更なる促進 コンベンション施設を活用した誘致強化 LRT整備による中心市街地の経済活動の活性化と、交流人口の増加の促進
産業活動の源となる人材の確保と育成	<ul style="list-style-type: none"> 地元での就職促進や若者Uターン就職支援の強化、子育てと仕事を両立できる環境整備、女性の見陽創出効果が高い企業の立地促進 伝統・高度技術の担い手や起業家など、地域産業を牽引する人材の確保・育成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏等からの本社機能の移転促進とオフィス系起業の立地促進 UJIターン就職・地元進学者の地元就職・就農支援の強化 働き方改革の推進

カ 目指す都市像

本市が持つ資源や強み、ポテンシャルを活かして、第一次産業から第三次産業まで「創造力」、「耐久力」、「循環力」、さらには「稼ぐ力」を高め、人や企業から選ばれ将来にわたって持続的に発展する『経済・産業未来都市』を実現していきます。

「創造力」「耐久力」「循環力」
「稼ぐ力」を高めた
《経済・産業未来都市》



(3) 大谷地区現場視察（地域活性化委員会との合同委員会）について
(平成30(2018)年11月27日 宇都宮市経済部都市魅力創造課大谷振興室同行・説明)

ア 視察地：大谷石採取場跡地観測所（城山地区市民センター隣接）

内容

- (ア) 大谷地区における観光・産業の数字に以下がある。
 - a 観光客の推移
最盛期（昭和56年）120万人
→ 17万人（平成23年東日本大震災時）
 - b 採石業者数
最盛期（昭和40年代）120社 → 現在7社
 - c 大谷石出荷量
最盛期（昭和40年代）80万t → 現在1.6万t
- (イ) 平成2年の坂本地区の陥没をきっかけに、観測所が設置された。現在、97地点で観測。
- (ロ) 大谷地区を11ブロック（A～K地点）に分け、地区ごとに観測計を設置。最終的に大谷石採取所跡地観測所にデータが集約される。
- (ハ) 当観測所は、過去のデータから今後の陥没や地震などの予測・予知をする施設ではない。振動の観測は行うが、振動があるからといって必ずしも陥没するわけでもなく、当観測所が独自に、「〇〇地区が今後陥没する」など判断することはできない（他の理由として、行政からの委託の中で観測をしているに過ぎず、予測・予知までの権限はない）。

イ 視察地：大谷石採掘場（有北戸室石下石材店様 敷地内）

内容

現在も大谷石を採掘している採掘場（深さ60mの縦穴）を見学

ウ 視察地：大谷夏いちご栽培圃場（榊ロック・ベリー・ファーム様）

内容

- (ア) 宮城県の手法を取り入れ、いちごの「クラウン（茎）」を冷却することで、夏であっても冬と勘違いさせることにより栽培をしている。ただし、宮城県は井戸水をヒートポンプで冷やすのに対し、本圃場では（大谷の）地下水の冷熱を利用し、クラウンを冷却している。
- (イ) 6月～11月に市場に出回るいちごは、ほぼ外国産であり、国内の洋菓子屋は外国産を避ける傾向がある。

- (㉞) 大谷の夏いちごについて、東京進出を検討したが、東京における「大谷」の知名度が低かったため、進出することができず、断念せざるを得なかった。しかし、その後、沖縄県のホテルや洋菓子店からの需要があり、現在は沖縄県への出荷も行っている。また、本年（平成30（2018）年）10月には伊勢神宮に大谷の夏いちごを奉納することができた。
- (㉟) 大谷の夏いちごは、他の夏いちごと比較し若干値段が高い。
 - a 夏いちご（大谷地区以外） 1kgあたり1,900円
 - b 夏いちご（大谷地区） 1kgあたり2,500円

エ 視察地：保冷倉庫実証実験場（榑屏風岩様 敷地内）

内容

- (ア) 地下約40メートルにある約9℃の地下水を地上へ汲み上げ、「熱交換機」に通すことにより水の冷気を保冷庫に流す。
→ 本年（平成30（2018）年）9月に実証実験が終了となり、現在冷熱エネルギーに関する企業誘致をしているところである。
- (イ) 本実証実験による冷熱エネルギーは、輻射冷却の効果によりじんわりと冷やすことができ、また湿度を60～80%で一定に保つことが可能なため、大谷の地下の環境を再現することも可能である。

オ 視察地 大谷公園・市営大谷駐車場

内容

- (ア) 大谷公園内（参道）に、活用されていない及び視認しにくい「針供養塔」及び「投石子育延命地藏尊」を見学（立ち入り禁止区域のため、参道からの見学）
- (イ) 市営大谷駐車場—大谷公園間の横断歩道に信号機がなく、非常に通行車両の見通しが悪い など

カ 視察風景（写真）



大谷石採取場跡地観測所



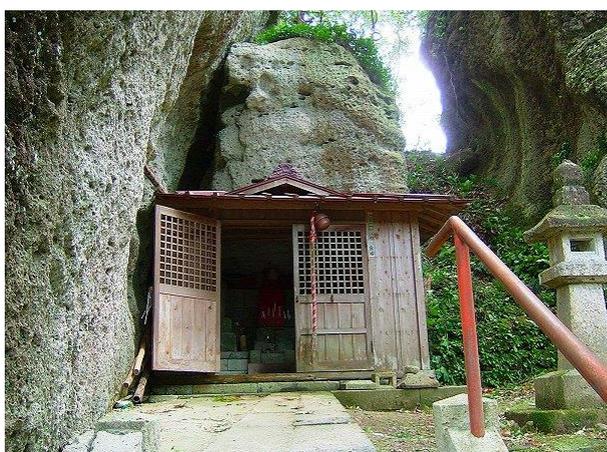
大谷石採掘場（有北戸室石下石材店）



大谷夏いちご栽培圃場（株ロック・ベリー・ファーム）



保冷倉庫実証実験場



大谷公園参道脇 投石子育延命地藏尊



大谷公園参道脇 針供養塔

3 委員意見

(1) 各委員会における委員意見

ア 第1回委員会

(平成29(2017)年3月3日(金)開催)

(7) 海外進出(国際化)、アウトバウンドについて

- ・ 国際化やアウトバウンドのテーマはどうか。ジェットロが公表している各種情報が企業に到達していないので、その情報を企業側に広め地元の産業に併せた基盤を整えるべき。それには、各国の法律や人的要因、生産性を日本語化することである程度の対応が可能である。
- ・ ジェットロの情報の中でテーマの可能性を探っていくのはどうか。本委員会は様々な異業種の方がいるので、委員との交流の中で新しい情報を入手出来たらよい。
- ・ 海外進出はメリットばかりの話なので、海外展開の先輩方や斡旋者の情報提供をしていただきたい。特にメリット・デメリット踏まえた公正な情報が入手できる場所が欲しい。

(4) LRTの整備による産業振興について

- ・ LRTが整備されるということなので、今後どのような産業が発展するのか調査してみてもどうか。

(ウ) その他

- ・ 「安心・安全」という視点で産業振興という視点も考えられる。本委員会では経営に関する切り口を提供するべきではないか。
- ・ (前委員会報告書の) 餃子博物館の構想は面白いと思うので、例えば、市民とプロスポーツ団体を活用した産業振興について考えられないか。
- ・ 最近勃興してきた新産業がこれから定着するのか将来性の検証してみてもどうか。
- ・ テーマを大きくしすぎて、最終的にまとまらずに商工会議所に提言して何も反映されないまま終わるというのが今までの委員会であった。例えば「国際化」をテーマにしても進出方法ばかりで撤退方法は教えてはくれない。もっと身近なテーマで、自分たちが知りたいと思う実利を取ったセミナーを開催する等でも良いのではないか。
- ・ テーマを考える材料作りが必要であり、市の基本政策や商工会議所の計画、前委員長から話を聞く等してから考えてもよいのではないか。

- ・ グローバルな視点でローカルに役立つテーマを設定することを目的に、まずは宇都宮市の方針などを聞く機会を作ったほうが良い。1年間を勉強の機会にしてもよいのではないか。その上で、ミクロな視点について考えれば良いと思う。

イ 第2回委員会（「宇都宮市第6次総合計画」を聴講）

（平成29（2017）年7月6日（金）開催）

（ア） 企業誘致について

- ・ 企業が撤退した後には何が残るのか、何も残らないケースも多いと聞く。企業誘致の方法論も重要だが、具体的にどのように拡大していくのかを考えなければならない。ただし、企業誘致のための土地を拡大・増設しても、栃木県の場合では上乘せ規制をしている場合が多く、身動きが取れないケースもある。この地域に何を誘致するのか、どのような産業を伸ばしていくのかを議論した上での企業誘致でなければ意味がない。

（イ） 地域内ブランドの発展について

- ・ 以前は有名ではなかった餃子のような地域内ブランドや、全国でもトップクラスの紅茶消費量など、新産業の開発も調査・研究事項としてあるかもしれないが、まずは情報共有が必要ではないか。

（ロ） 既存企業、事業の推進・発展について

- ・ 新しい産業の開発や企業誘致ではなく、今あるものの推進・発展が重要ではないか。同時に、今までの振り返りも必要であると思われる。清原地区も中核の工業団地として位置付けられているが、撤退している企業もある。その理由を探ることも必要であり、解き明かしながら提言に繋げていくことも考えられる。

（ハ） 人材確保について

- ・ 建設業に限らず、どの業種も人手不足が続いている。企業誘致も真剣に取り組まなければならないが、本市に若い人材を集めるためにも大学誘致も検討する必要があると感じている。

（ニ） 農産物の安定供給及びその物流について

- ・ 「宇都宮市第6次総合計画」にある未来都市像の一つに、「農産物の安定的な供給」が取組例として掲げられている。安定的な供給には物流なども関わるため当委員会でこのことを取り上げて良いのではないか。

（ホ） 省エネの推進について

- ・ ランニングコストの削減も考慮した上で、同じく未来都市像の一つにある「省エネの推進」について調査・研究をしても良いのではと感じる。

(キ) 空き家や施設老朽化対策について

- ・ 空き家の増加や施設の老朽化が目立ち始めてきており、将来の見通しも不透明な状態である。

(ク) その他

- ・ 「宇都宮市第6次総合計画」の内容・テーマについては抽象的なものだったと感じ、宇都宮市自体の強み弱みをもっとあるのではないかと感じた。
- ・ 本年から3年間実施されるJRのデスティネーションキャンペーンを当委員会で取り上げて良いのではないかと。
- ・ 現在整備が進められているLRTもどのように乗っていいのかわからないのが実情である。産業の推進がニーズとミスマッチしているのかもしれない。
- ・ 調査・研究事項を絞るにあたり、まずは客観的に本市を見られる方（市外の方でも構わない）からの話を伺い、本市の良い箇所、悪い箇所について説明をもらった上で、具体的な調査・研究事項を決定してはどうか。
- ・ 委員メンバーの業種が各々異なるため、共通のテーマで調査・研究事項を絞ることは正直難しい。
- ・ テーマが大きくなりすぎると、纏まりがつかなくなるので、まずは身近なものを委員会として取り上げてはどうか。

ウ 第3回委員会（「うつのみや産業振興ビジョン（改定）」を聴講）

（平成30（2018）年6月25日（月）開催）

(ア) 大谷地区や大谷石について

- ・ （大谷地区に関し、「まちづくり」の観点になってしまうが）宇都宮商工会議所青年部にて、6月23日に、新たな観光資源の掘り起しと、観光・産業の活性化を目的に、大谷地区で「EXHIBITION IN 大谷」という事業を行った。大谷地区は、「多くの観光客は来られるが、お食事処がない」「一つ一つの観光スポット間には物理的な距離がある」などを感じた。大谷地区の将来の発展を見据え、当委員会で大谷地区をテーマにしてはどうか。
- ・ 大谷地区が特区や規制緩和などの対象になれば、より活性化が図れるのだが。ろまんちっく村（えにしトラベル）は大谷の地下クル

ーズ事業を実施しており、大谷の活性化は今がチャンスではないかと思う。大谷地区はまだ「点」でしかない。今後、点と点をつなぐルートづくりも必要ではないか（例えば、「餃子」と「大谷」を結ぶルートなど）。

- ・ 自身はNPO法人大谷石研究会に所属している。大谷石・大谷地区に対する宇都宮市からの支援はまだまだ薄弱だと感じている。今後、大谷石をどのような産業としていくのか、産業として成立するのは大谷石と考えている。また、観光として大谷地区を発展させるには行政の方が必須である。当委員会では、大谷地区を観光で捉えるのではなく、大谷石をどのように産業として発展させていくのかをテーマとしてはどうか。
- ・ 大谷石など既存のものの活用という視点は良いと思う。

(イ) 農業振興について

- ・ 農業の振興という観点で、ニラや玉ねぎなどの作物に着目してはどうか（農業分野においても様々な企業が関係しているため）。

(ウ) LRTによる産業の発展について

- ・ LRTの工事が着工されたが、単なる通勤手段のツールなのか。またはコンパクトシティ実現のためのツールなのか。今後、LRTと産業をどのように結びつけるのか（LRTの活用も含め）を考えなければならない。
- ・ LRT（JR宇都宮駅東側の再開発も含む）は旬の話題として良いと思うが、テーマとするのならば、やはり産業の観点で着目しなければならず、併せて中心市街地の活性化も視野に入れた方が良い。

(エ) 労働力の確保について

- ・ 人材は産業の源と言われ、「労働力の確保」という視点も良いと思う。

エ 第4回委員会（「大谷地区現場視察」を実施）

（平成30（2018）年11月27日（火））

(ア) 大谷地区のさらなる産業振興の可能性について

- ・ 一般的に見ること（立ち入ること）ができない箇所を視察できたことは非常に勉強となり、今後、いかに「産業」という切り口で、調査・研究するかを検討してはどうか。

(イ) その他

- ・（多種多様な業種の方に集まっていたが）どの業界も人材不足、人手不足の話題がなされているため、あえて当委員会にてテーマとするまでは至らないのではと思う。

オ 第5回委員会

(令和元(2019)年10月1日(火))

(7) 大谷地区の活性化について

- ・ 今回の委員会で大谷地区の現場視察を実施したが、大変勉強になった。かつての大谷資料館は閑散としており、お客もいなかったが、現在は見違えるように変わり、大谷資料館はお客でいっぱいであり、駐車場も大混雑している状況である。本市がいかに大谷地区の「観光」に力を入れているのかが感じられる。
- ・ 大谷地区には様々な観光拠点があるが、「線」で結ばれていないように感じる。
- ・ 大谷地区がさらに発展するには、「買い物して」「食べて」「宿泊して」「帰る」というストーリーがあると良い。
- ・ 大谷には地下の探検クルーズもあり、集客要因の一つとなっている。
- ・ 多気城（の跡地）も観光地化し、例えばハイキングコースにするなど、活用について考えてはどうか。
- ・ 大谷にある市営駐車場に、観光拠点が点でプロットされた（大谷地区だけではない）周辺マップが設置されている。ただし、距離感がわかりづらい、自動車でなければ行けないなど、観光客は容易に周遊できないと感じられた。

(イ) 外国人観光客について

- ・ 外国人観光客の受入促進に力を注いでいるようだが、どこの国からの観光客が最も多いのか。また、その理由は何なのか。
⇒（事務局回答）最も多いのは台湾であり、次いで中国、アメリカである。台湾からの観光客が最も多い理由の一つとして、行政（市長等）が台湾へ出向きシティプロモーションを行っていることが挙げられる。
- ・ 札幌市では、すすきの周辺を回遊させるようにLRTを運行し、うまく外国人観光客を取り込んでいるようである。

(ウ) その他

- ・ 本市には地域資源やポテンシャルがあり、また東京からのアクセスも良い。今後は、観光客だけではなく定住者を増やすことも考えていかなければならない。
- ・ JR宇都宮駅から大谷地区へ、ピストンバスを運行しているが、大谷地区だけではなく、周辺の「石那田石」や「ろまんちっく村」、「宇都宮動物園」などともリンクさせ、うまく噛み合うことで、より集客等が高まると思われる
- ・ ろまんちっく村に隣接する地区で、先般、新たにホテルが建設されることが報道された。ホテルの建設を機に、さらなる集客を期待したい。

(2) 委員からの、産業振興におけるキーワード

- ア 国際化を見据えたアウトバウンドの推進
- イ LRTの整備に伴う産業の発展
- ウ 企業誘致策の推進（既存企業が撤退しないための仕組みの構築も含む）
- エ 人手不足の解消（特に若年層の確保）
- オ 安定的な農産物の供給、ひいては物流産業の発展
- カ 大谷地区における産業の振興（観光とは異なる観点）

4 まとめ

当委員会では、「産業振興」をテーマとし、宇都宮市が策定した「第6次総合計画」や「うつのみや産業振興ビジョン（改定）」について検討を重ね、地域内商工業者ひいては本市がさらなる発展をするにあたっての重要事項について調査研究をした。

本市では、今後、LRT整備やJR宇都宮駅東口地区整備、大谷スマートインターチェンジ整備事業などのハード事業が実施されるほか、大谷地区を始めとした観光事業や企業誘致の促進、女性の雇用促進・就労支援などの人材確保などを目指し、「第6次総合計画」及び「うつのみや産業振興ビジョン（改定）」の目標である「6つの未来都市」「経済産業未来都市」に向け、動き出しているところである。

これら「未来都市」の実現にあたっては、各々の分野において、多角的な視野・アプローチが大切であり、地域総合経済団体として、本市産業発展の一端を担う当商工会議所も積極的に取り組む必要がある。

そこで、当委員会にて議論を重ねた結果、宇都宮市が進める計画や各委員の意見等を踏まえ、本市のさらなる産業振興について、当委員会としては「観光とは異なる観点での大谷地区における産業の振興」に着目した。

大谷地区及び大谷石産業は、日本遺産登録により、観光産業として関心が高まりつつあるが、「大谷石産業のポテンシャル」や、「大谷夏いちごの全国区化による農業関連の発展」、「大谷地区地下水による冷熱エネルギーの利活用」など、今後、本市の産業振興・発展につながる地域資源が豊富にあることが明らかになった。

また、大谷地区産業の産業振興・発展の足掛かりとして、地元企業や住民への理解促進、市外への積極的なプロモーションを行うことで、「大谷石産業」、「エネルギー産業」及び「農業」などと連携した新産業創出の可能性も生まれ、新たな企業誘致の促進や雇用拡大、農業・物流産業の発展等に大きく寄与するものと考えられる。

そのためには、地元事業者や地域住民、商工団体、行政等が一体となったプラットフォームを創設するなど、多角的な視野・アプローチが必要であり、今後の具体的な取り組み等については継続的な検討が必要であると思われる。